

職場見学 体験レポート（はじめての見学編～大阪市西成区）

「職場見学って実際にどんな雰囲気なの？」という声にお答えして、参加者の声を基に体験レポートを作成しました。ぜひ、ご覧ください。

今日は大阪自彊館（おおさかじきょうかん）の職場見学会です。

当日の開始時間と地図を確認。「大阪自彊館」という法人の名前に、少し硬い雰囲気の法人なのかなと思いつつも会場に無事到着しました。

会場は大阪市西成区にある「萩（はぎ）」という複合施設です。



まずは到着したら、人事課の長谷川さんと話をしました。最初は緊張していましたが、自然体に話しかけてくれるため、徐々に気持ちがほぐれていきました。



実際に「あまり施設見学の経験が無いこと」や、「福祉に関心はあるけど特定の分野に絞っているわけではないため幅広く見学してみたいこと」を伝えました。この時話したことは、その後の施設見学の時に見学の内容に織り交ぜながら説明してくれているのが伝わりました。

では、早速、施設見学のスタートです！

まず建物の2・3階にあたる「障害者支援施設いまみや」を見学します。肌色のチョッキを着た方が施設長です。



説明は施設長代理の下鶴（しもつる）さんがしてくれました。

実際に働いている職員の業務内容やシフト(勤務体制)、障害者支援施設とはどんな場所であるか、など丁寧に話してくれました。



お部屋に備え付けられている介助の時に使用する移乗機器を説明してくれています。他にも、日中活動のお部屋やリハビリ室の説明なども丁寧にしてくれました。



中でも印象的だったのは、現在「施設長代理」をされている下鶴さんですが、ケアスタッフから始まった現場での下積みの経験、すべてが「今」に繋がっているというお話でした。特別養護老人ホーム「ジュネス」での勤務も長く、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添うとはどういうことか、身をもって学んだ時間だったそうです。

続いて、4・5・6階にあたる「救護施設ひきふね」に移ります。



こちらでは施設長代理の竹村さんが説明をされ、まず「救護施設」とはどんな施設なのか、実際に職員がどのように利用者さんと関わりを持つのかなど、具体的に自分が働く様子を想像しながら話を聞くことが出来ました。大阪自彊館の救護施設は成人男性の施設であり幅広い年代の方、様々な経験を持った方がいます。特に印象的だったのが、目の前の方と向き合う気持ち、相手を尊重することが大切であり、日々の当たり前の積み重ねが利用者さんとの関係性を作っていく、と言われたことです。



施設見学では、浴室や洗濯場など利用者さんがこれから自立されることを想定のもと作られた設備などもあり、施設の特徴がよく分かりました。



今回は施設見学会を通してぼんやりと描いていた自分の働く姿をリアルに想像することができたのが大きな収穫でした。また、色々な職員さんのお話を通して自分が働く上で大切にしたいことも見つめ直す機会となりました。

以上が体験レポートとなります。オンライン説明会では伝わりにくい施設の雰囲気が少しでもお伝えできたでしょうか。また、ご不明な点や要望等お気軽にお問い合わせください。